

〒 結核しずおか

8号2002年1月25日

発行所

財団法人結核予防会静岡県支部

〒420-0915

静岡市南瀬名町6-20

TEL 054-261-2512

FAX 054-261-9474

Eメール tb-shizu@topaz.ocn.ne.jp

発行責任者 花崎敏行

印刷 三協印刷株式会社



(写真提供 富士市 一条義明氏)

年頭所感

皆様には、健やかに新しい年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

年の初めにあたり、当支部の事業が市町村、医師会、学校をはじめとする関係各位のご指導、ご協力により、順調に進展し、県民の皆様の健康にいささかなりともお役に立つことが出来たことを深く感謝申し上げます。

現在、私たちの生活は、本格的な少子高齢社会の到来、環境問題の深刻化、経済のグローバル化の進展といった大きな課題に直面しており、従来の社会構造を時代に応じ、長寿社会、循環型社会、大交流社会に変革していくことが求められております。

こうした中で、私は、県民の皆様の安心、安全を確保するとともに、元気な静岡県づくりを進めるため、独自の地域戦略を展開してきました。お陰さまで、静岡県は、これまで人づくり、環境保全、経済活動といった様々な面で全国の先進県として評価されています。

こうした成果を基にさらに発展させるため、現在、県づくりの指針となる新たな総合計画を策定しておりますが、この計画には、皆様の意見とアイデアを広く反映させ、より一層「開かれた県政」の基本としていくこととしております。

今後も、常に県民の皆様の声に耳を傾け、共に考え、共に行動をしながら、住む人も訪れる人も快適と感じ、また、「富国徳」な地域づくりにまい進していく決意であります。

当支部におきましても、社会経済情勢の影響で厳しい環境下にありますが、より一層の経営の効率化、収益率の向上等、経営の安定化を図りながら、健康診断やキャンペーン等を通じ、これまで以上に結核予防に努めてまいります。

今後も、結核予防会静岡県支部の活動に対しまして、一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

平成14年1月



財団法人結核予防会静岡県支部長
静岡県知事 石川 嘉延

平成13年度活動状況

1 教育・広報事業

(1) 全国結核予防週間…平成13年9月24日(月)～30日(日)

静岡県、市町村、静岡県結核予防婦人会と連携して、次の行事を展開すると共にマスメディアを通して結核予防思想の普及・啓発に努めました。

- ① 結核予防キャンペーン…ページ4参照
- ② 結核等の正しい知識と対策が広く県民に十分浸透するよう、県・各市町村にポスター・資料の掲示・配布をお願いしました。
- ③ 予防の大切さ、複十字シール募金運動の協力お願いを新聞に掲載しました。
平成13年10月30日・11月7日(毎日新聞朝刊静岡版)

(2) 静岡県結核予防大会…ページ4参照

県結核予防婦人会共催及び静岡県の後援で実施しました。

- ① 結核予防功労者・結核予防功労団体の表彰
結核予防会静岡県支部長感謝状3名、結核予防婦人会感謝状29団体
- ② 記念講演「結核の現状と問題点—先進国との差を縮めよう」
講師島尾忠男先生(結核予防会前会長・エイズ財団理事長)

結核をなくそう



2 教育広報資料の作成・配布

啓発、普及のため、次の刊行物や資料を配布、貸出しを行いました。

- ① 広報誌「結核しずおか」年3回(4月・9月・1月各々25日発行)
県・市町村・病院(呼吸器内科)等関係機関、事業所、複十字シール募金者に配布
- ② 業務案内誌「ごあんない」
業務内容を掲載したパンフレットを9月に創刊、県・市町村・病院等関係機関、事業所、福祉施設、複十字シール募金者等に配布
- ③ 標語付カレンダーの作成配布
平成14年カレンダーを県、市町村及び関係機関に配布
- ④ 結核関係資料・刊行物の配布
結核予防会本部発行の参考書資料、機関紙「複十字」、婦人会団体機関紙「健康の輪」の配布
- ⑤ 啓発資料の貸出し
県中東遠保健所掛川支所、県富士保健所管内の結核予防活動のため、結核資料パネルを貸出し

3 関係機関、協力組織との連携

(1) 結核予防婦人会への協力・支援

- ① 静岡県結核予防婦人会総会 6月29日(総合社会福祉会館)
- ② 同地区支部長・担当者会議 6月29日(総合社会福祉会館)
- ③ 男女共同参画の日交流フェスティバル 7月30日(総合女性センター)…県主催(結核予防婦人会協力)

(2) 市町村の健康イベントへの参加・協力

結核、肺がんのパネル等を出展、追加検診を通じて住民に対して結核及び肺がんの予防及び検診の重要性を呼びかけました。

- ① 伊豆長岡町健康まつり 10月14日(日)
 - ② 裾野市健康まつり 11月11日(日)
 - ③ 清水町健康まつり 11月23日(金)
- …ページ5参照

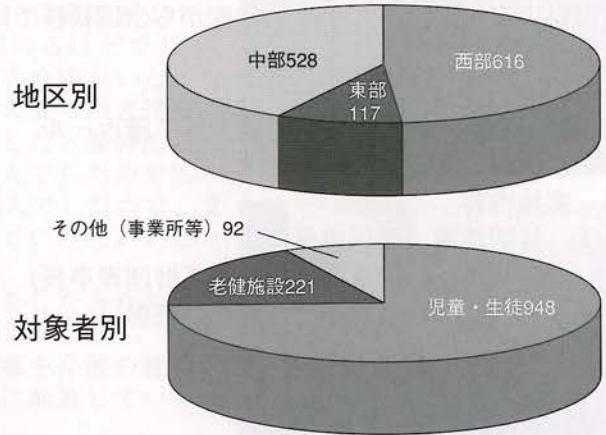


定期外結核検診の状況

平成13年4月より12月までの定期外検診の総数は、1261名（12日間）であった。その内訳は西部地区7日616名（48.8%）中部地区1日528名（42.0%）東部地区2日117名（9.2%）であった。その内訳は以下の通りです。

※定期外検診＝接触者検診

市町村名	排菌者数	内 訳	検診者数
浜松市	3名	教員・施設入所者・外国人労働者	510名
新居町	1名	施設入所者	34名
浜北市	1名	施設入所者	22名
掛川市	1名	施設入所者	50名
静岡市	1名	高校生	528名
富士市	1名	外国人労働者	55名
伊東市	1名	大学生	62名



定期外検診をとおして、結核は決して過去の病気ではなく結核を知らない児童生徒までも巻き込む恐ろしい感染症だということを再認識して下さい。

「フィルム評価会に参加して」

年に一度、結核研究所で開催されるこのフィルム評価会は、独特の雰囲気と活気に包まれていたように感じました。全国の結核予防会本部・支部から集まった医師・診療放射線技師が一堂に会し意見を交わすことは、それだけでおおいなる意義があると感じました。また、全国から提出された胸部写真に限定し2日間見続けるこのフィルム評価会は、普段胸部検診にたずさわっている私にとって非常に興味深い時間となりました。

2日間にわたり、読影に最適な写真から不十分な写真まで集中的に見せてもらい大変勉強になりました。予防会のフィルム評価は、濃度・鮮鋭度・コントラスト・粒状性などの項目を肺野・肺周辺部・縦隔・心陰影の各部位について評価するのだが、それぞれの見やすい濃度値が実感としてよくわかりました。また、全体のフィルム評価のなかで、肺周辺部を出すのがなかなか難しいことが話題にあがっていました。A判定に近いB判定の写真で肺周辺部がいまいちと言う写真がいくつかあり、撮影ポジショニングやフィルム・増感紙の組合せ、撮影条件や現像処理などすべてが一貫してはじめて良い写真が得られることが改めて理解でき、胸部写真の奥深さを再認識しました。

日常業務においては、受診者の接遇から業務は始まるので、画質の向上はもちろんのこと、この点も十分に配慮して今回のフィルム評価会で学んだことを活かしていきたいと思っています。

講演では、増山英則先生から今後の胸部検診についてのお話がありました。今、胸部検診が大きな曲がり角にきている事や今後胸部検診はこうなるのでは？という話など、周りの人達も真剣に聞いており胸部検診に大きく依存している我が支部にとって非常に中身の濃い話でした。この評価会に出席することができて本当によかったと思っています。

懇親会は、昼間と違いおだやかなムードで行われ私も他支部の数人の方々と話をする事ができ、ほんの少し交流を深めることができたかと思っています。

全国から提出されたフィルムを見る事が出来て、とても良い機会でした。

(検診課 放射線技師 宮崎文考)



全国結核予防週間における啓発

平成13年9月24日（月）～30日（日）

静岡県結核予防大会の開催

静岡県結核予防婦人会と共催で、静岡県の後援並びに市町村の協力を得て、特に平成13年度から全国結核予防週間に実施しました。

- ア 開催日 平成13年9月28日（金）
- イ 開催場所 静岡県総合福祉会館7階ホール
- ウ 参加人数 260人
- エ 実施内容
 - ① 特別講演 鳥尾忠男先生
（結核予防会前会長・エイズ財団理事長）
 - ② 結核予防功労者・功労団体の表彰
功労者3名 功労団体29団体



街頭キャンペーンの実施

- ア 実施日 平成13年9月29日（土）
- イ 実施場所 静岡市青葉イベント広場
- ◎静岡県、静岡市、静岡県結核予防婦人会と協力して、街頭無料検診・健康相談や結核予防のリーフレット、ポケットティッシュ配布など、結核予防思想の普及啓発を図りました。
- ◎静岡県結核予防婦人会各支部の協力を得て、県内各地において結核予防のリーフレット、ポケットティッシュなどの配布とともに複十字シール募金運動街頭キャンペーンを実施し、結核予防思想の普及啓発を図りました。



裾野市健康まつり

<大盛況だった、骨密度測定>……11月11日(日)

裾野市では恒例の「ふれあい健康まつり」が今年も行われました。この第19回を数える催しは、福祉保健会館を中心に健康に関すること、社会福祉に関することを広く深く市民にPRしております。

さて、今回健康部門の目玉の一つは、なんと言っても、骨密度測定でした。市民の関心も大きく開始時間前に順番待ちの列が出来るほどでした。測定開始されてからも列が途切れることなく、晴天に恵まれ暖かいとはいえ11月の風がビュンビュン吹く中での順番待ちは、さぞ大変で(苦情がでるかな?)と思いきや、その様な事も無く順調に進みました。最終的には195人の住民が測定をしました。健康部門の来場者が800人でしたので25パーセントの方が測定されました。加えて結核検診者も185人でしたので、文字通り「健康まつり大盛況」の一旦を結核予防会に担っていただいたこととなります。

結果についても、わかりやすく工夫されており、測定をした方たちに好評でした。

この結果をもとにしての個々のニーズに応えた保健指導を今後の課題とし、さらなる住民の健康維持のため、結核予防会とともに前進していきたいと考えております。

(裾野市健康課 看護婦 渡辺亮子)



伊豆長岡町健康まつり

……10月14日(日)

温泉と苺で有名な伊豆長岡町の保健センターで、10月14日に健康まつりが開催され、500人余の方々の来所がありました。「自分の力、地域の力、合わせてつくろう自分の健康」をテーマに9種類のイベントが行われ、今年は初めて結核予防会のボランティアによる①パンフレット・風船配布による結核予防PR②レントゲン写真と結核についてのパネル展示と説明③胸部レントゲン撮影の3つがおこなわれました。パネル展示では小さな子供からお年寄りまで、多くの方が熱心に質問している姿もみうけられました。またレントゲン撮影は23人の方が受けられました。

結核はここ数年、患者数が増えているにもかかわらず、皆さんの意識の中ではまだまだ昔の病気としてとらえられているようです。今回のイベントを通じて、結核予防を伝えるいい機会になったと思います。

当町の健康まつりが盛会裏に終了できましたことは、結核予防会の皆様のご協力によるものと感謝申し上げます。

(伊豆長岡町健康福祉課 保健婦 望月麻衣子)



清水町健康まつり

……11月23日(祝)



市町村保健事業の紹介

緑茶と健康の町 なかかわね

平成14年度に町制40周年を迎える中川根町は、日本三大銘茶のひとつ「川根茶」の産地として広く知られています。また、胃ガン訂正死亡率の最も低い町ということでも永い間、《緑茶の効果等》について、大学教授や医療関係研究者により数多くの調査研究が進められてきました。

中川根の誇る四季折々の美しい自然には、静岡自然百選にも選ばれた「山犬段」があり、春には深山に自生するツツジ科アカヤシロとシロヤシロ（愛子さまのお印“ゴヨウツツジ”）の観察会、秋には見事な紅葉見物でとても賑わいます。この山犬段へ行く途中にテニスコート二面整備のペンション風、町営宿泊施設「ウッドハウスおろくぼ」があり、木の香り温もりを求めた家族連れや若者に大変人気の高いスポットです。川根茶の歴史もわかる町施設「茶茗館」は、道の駅にも指定されて緑萌ゆる里のコミュニティエリアとして親しまれています。



「中川根町舎」



「茶茗館」

家族揃って健康チェック

40歳以上の方を対象とした基本健康診査事業も、スタートしてからもうすぐ20年を迎えようとしています。過去には住民の意識・生活実態の地域調査等で各種健康事業に評価及び検討を加え、早期に全員全項目検査を採り入れ、チェック項目の充実に努めてまいりました。町の中央に住民を集めるのではなく、住民がそれぞれの集会所等近い所で健診を受けられるよう町内15地区を25会場に分け、きめ細かに提供するように心掛けています。

また、住民胸部レントゲン検診（肺ガン、結核）も、静岡県結核予防会検診車によって山深い遠隔地区までくまなく巡回していただき、毎年95%を越える高い受診率で展開しています。平成12年度からは新たな試みとして、検診期間中に夜間検診を一日取り入れてみました。これは受診者の皆様が更に受診しやすくなるようにと提供させていただくサービスです。17：30～20：00までの2時間半で300人以上の受診があり、住民からは大変喜ばれております。夜間検診に従事し遅くに静岡市まで帰り、翌朝の早い時間にはまた中川根まで出掛けてくださる結核予防会スタッフの皆様には、ご協力に深く感謝申し上げます。

住民はこれらの健診により、家族の健康をお互いに確認し合い、安心して明日からの仕事に元気に励むことができます。

結核予防婦人会の活動

結核住民検診を毎年高い受診率で実施していくことは、結核の早期発見早期治療および感染予防の面からもとても重要なことと考えます。この結核住民検診を積極的に住民に勧奨し受診に結びつけ、結核予防キャンペーンにも当初より熱心に取り組み、継続して募金活動と結核予防PRに活動して下さっている中川根町結核予防婦人会の努力と功績は大きなものと感謝しております。

中川根町保健活動の一部をご紹介させていただきました。これからも係員一同、前向きな姿勢を忘れず、各種保健事業に取り組んでいきたいと思っております。

中川根町役場保健衛生課
健康係長（保健婦） 伊藤 千佳子

連載 なぜ・なぜ・なあに

生活習慣見直してみましょ！

前号でご紹介しましたBMIの計算いかがでしたか！？今回はどんなことが肥満を招いているのかYES、NOのチェック表にチャレンジしてみてください。

1. よく嘔まないで、早食いする傾向がある
2. おなかいっぱい食べないと気がすまない
3. 油っぽいものや甘いものが大好きである
4. 朝食を抜くことが多い
5. 間食をしがちで、夜食の習慣もある
6. 晩酌、またはジュース、コーラを欠かさない
7. 飲んだり食べたりでストレスを解消する方だ
8. 運動不足を実感している
9. 両親、あるいはそのいずれかが太っている
10. 子供の頃、太っていた



あなたのYESはいくつ？

- | | |
|------|--------------------------|
| 10～9 | 肥満街道をまっしぐら、今日から大幅な生活改善を |
| 8～5 | このままでは肥満は時間の問題、早めに生活改善を |
| 4～3 | 肥満への岐路、食習慣の改善と、運動習慣を |
| 2～1 | 9、10以外にチェックしたところがあれば、改善を |
| 0 | この習慣を守ってください。油断は禁物 |

YESと答えた項目が習慣の改善が必要とされる所です。自分で招いていると思うと習慣とは怖いものですね！また、9.10項目は両親またはどちらかが肥満の場合、体質の遺伝と親から受け継いだ食生活が影響していると考えられ、子供の頃に太っていると脂肪細胞の数が多く、太りやすい傾向があることがわかっています。特に注意しましょう！

星あかり…

今日は11月20日（火）今の時期は、暗いなあー、寒くなってきたなあーと心の中で呟く、薄暗いアスファルトの道をぼくぼくと足音だけが異常に大きく聞こえる。此処は民家も無い街灯の明かりも及ばない田舎道、満天の星空の下、星明りに照らされて青白く浮かび上がったラインを頼りに横目で見ながら歩く。

家を出てから15分頃大体5時20分かなと思っていると自動車のエンジン音と曲がってくるライトが見え、やがて正面に光が向き合い眩しく路面が光の中に入り見えなくなる。路面を確かめながら歩みを緩めて通り過ぎるのを待つ、私のスタイルを見て運転手はギョ！とするだろうな…と心の中で苦笑する。誰も居ない筈の道に黒いスキー帽を深くかぶり黒のトレーナーを着て手だけが白い軍手の出で立ちで歩いているから…

いつもの折り返し地点に差し掛かる、自販機の明かりで腕時計を見ると5時34分万歩計は3045歩、帰り道は薬科川の土手道を歩く、土手に上がって立ち止まり明けがかった東の空に向かって手を合わせ昨日の無事を感謝し我が家と子供、孫達の幸せと健康を祈る、約3分のラジオ体操をすませ再び歩き始める。

今度は足音がザクザクと霜柱を踏み倒す足音をさせながら、川のせせらぎの音を聞き歩く。

出勤前早朝ウォーキングは病に罹ってから始めてもう13年間続いている、お蔭様で四季の移り変わりは人様より敏感に知ることが出来る気がする…歩きながらの風のおい、周りの木と葉の色、種々の草花、小鳥のさえずり等々移り変わりで知ることが出来る。また物思いに耽ったり、歌を口ずさんだりして楽しい、大分明るくなった山と山の間の空が白、オレンジ、青の三色に映え美しい、家の近くのお地藏さんにウォーキングの無事に終わった事と今日一日の無事を祈る。

“さあー 一日が始まるぞー”

キ～オさんの 日記

作画 コーイチ



(検診課 技監 岡村彰二)

お知らせ

- 1 結核、肺がん関係パネル等の貸出…無料
パネル、フィルム、シャーカステン、ビデオ
- 2 結核関係図書、パンフレット等の斡旋…財団法人結核予防会発行
図書 JATAブックスシリーズ「結核症の治療」他13冊、「ヴァジュアルノート結核シリーズ」全4冊、「メデカルカンファレンス」全2冊、その他単行本全16冊…
パンフレット 「時には胸にも心配りを」「ひとめでわかる結核と肺がん」「新版結核読本—結核とはどんな病気か」
ビデオ 「結核ってどんな病気?」「結核菌を探せ～抗酸菌検査の実際」等
- 3 財団法人結核予防会ホームページ…結核関係諸情報提供
ホームページアドレス <http://www.jata.or.jp/>
- 4 静岡県支部Eメール アドレス tb-shizu@topaz.ocn.ne.jp



進んで受けよう健康診断

結核検診
肺がん検診
胃がん検診

複十字シール運動の趣旨

世界保健機関（WHO）が、平成5年4月に結核の非常事態を宣言し、8年が経過した今もなお、結核は再興感染症の一つとして新興感染症とともに注目されております。

現在の日本では、マスコミ報道にも見られるように学校、医療機関、老人関係施設等において結核の集団感染が多発、それも手伝って平成9年には新規登録患者が38年ぶりに増加に転じ、平成10年以降も引き続き増加、それ以外にも多剤耐性結核問題、高齢者における結核患者の増加問題等があり、平成11年7月には厚生大臣より「結核緊急事態宣言」が発せられ、わが国における結核事情は緊急に対応を図っております。

こうした状況のなかで、複十字シール運動は結核や肺がんその他の胸部に関する疾患をなくして健康で明るい社会を作るため、これらの病気に対する知識の啓発と予防意識の高揚を図るとともに、事業資金を造成することを目的とします。

また、国内のみならず世界の結核を撲滅するため、結核が蔓延している途上国への援助も募金の目的とするものです。

平成13年度採用複十字シール



勲五等宝冠章
前静岡診療所長
村松 みさ



「いいきもち、うれしいな」
藤本 綾子



「紅梅の香り」
花田 功



「花束（おめでとうの言葉を添えて）」
入口 明

新年明けまして
おめでとうございます



編集後記

21世紀の幕開けに合わせてコンピュータシステムの更新を進め13年度より開始したが、職員研修が出来ないまま見切り発車したためと、年度始めの忙しい時期と重なり、今日現在の進捗率は60%程度であります。

経営、業務を統括する私の希望するデザインには程遠い状況で14年度に繰越して新たなソフトの作成をしなければならない状況であります。しかし、業務の省力化に向かっている事とお金がかかる事は確かな様であります。
(T・H)

【題字：田中隆：元支部職員】